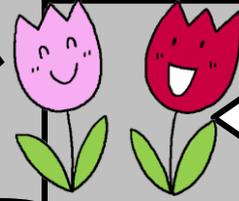




とくべつしえん

富田小学校 特別支援教育部
特別支援教育コーディネーター通信 春号



令和4年 4月18日

新しい学年がスタートし、少しずつ学校生活にも慣れてきたところではないでしょうか。コロナウィルス感染症対策の影響で、本年度も様々な行事や学習の縮小、中止等が予想されます。予定が変更になることもあり、子ども達も不安定になりがちです。それでも新しい学年になり、気持ちを新たに子ども達は毎日がんばっています。富田小学校の特別支援教育部では、保護者の皆様とともに、子ども達の健やかな成長を見守り、学習や生活、行動において、よりよい対応や支援を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

特別支援教育とは

障がいの有無に関わらず、全ての子どもを対象に、必要な支援や指導を行うことです。子ども一人一人をしっかり見つけ、分かりやすい指示の出し方、適切な対応や支援の方法を考えていきます。

子どもに合った教育環境

理解の速さや得意な学習の方法は、一人一人違います。教育環境を整えることも大切な支援の一つです。

□ 特別支援学級(なかよし・たんぼぼ)

一人一人に合った学習内容を、静かな環境で、子どもに合う速さや方法で学習し、学力や生活力を身に付けていきます。

□ 通級指導教室(ことばの教室、まなびの教室)

子ども一人一人の言葉や学びに関する相談や練習をおこないます。週に1時間程度、ことばの教室やまなびの教室に行って学習します。

□ 個別指導、少人数指導、学級での支援

子ども一人一人の学びを大切に、学力や生活力を高めていくため、少人数担当や教育支援員が、指導や支援を行います。少人数や個別で指導したり、学級に入って指導の補助をしたりします。

特別支援教育コーディネーター

担任や保護者、子ども達と相談しながら、子どもに合った支援や指導について一緒に考えたり、提案したりしていきます。子どもさんの学習や生活で気になることがありましたら、いつでも、担任、特別支援教育コーディネーターに声をかけてください。



連絡先: 富田小学校 TEL 33-1011

担当 畑中(特別支援教育コーディネーター)

「子ども達のサイン」見逃していませんか？

新型コロナウイルスの影響で、非日常と日常が逆転している生活が長引く今、みなさんいろいろな思いを感じていることと思います。子ども達もこれまでの生活とは違い、見えないストレスが少しずつ出てくるころです。ニュース等でも「コロナ疲れ」「コロナうつ」という言葉をよく耳にするようになりました。

実は、小・中学生の10%以上がうつ傾向にあるとする調査もあるほど、今子どものうつ病が増えてきています。子ども達のちょっとした変化(サイン)を見逃さないように、アンテナを高くして観察してみてください。

【体の不調を訴えるサイン】



東京大学大学院教授・下山晴彦 監修

『子どものうつがわかる本——早く気づいてしっかり治す』(主婦の友社)

身体の痛みは、心の痛み

昨日まで、ゲームをして楽しそうに遊んでいた我が子から、学校に行こうとすると、「お腹が痛い」「頭痛がする」と訴えられると・・・「本当は、仮病じゃないの?」という思いが湧いてきます。子どもによっては、「たとえ身体に病気がなかったとしても【痛い】と感じることがあります。」もし、子どもが「あれ?」と思うようなことを言ってきたりいつもと違う行動をとったりしてきても、絶対に否定したり、大きな声で怒鳴りつけたりはしないでください。

子どもの言葉や行動を、まずはありのまま受け止め、「お腹が痛いんだね。しんどいね。」「そんな風に思うんだね。」と共感してあげることが大切です。子どもに問い詰めるのではなく、「何かつらいことがあったら話してくれてもいいよ。」と待っていることを伝え、子どものタイミングで話してくれるようになるかもしれません。